学校教育目標　かしこく　たくましく　心豊かな　児童の育成
目指す児童像　瞳・笑顔・汗・会話　きらきら輝く　鈴谷の子

令和６年６月２８日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和６年度　第４号
さいたま市立鈴谷小学校　☎８５２－５６７５
鈴谷小Ｗｅｂページアドレス　https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/

守れ！　カワセミ都市スズヤ

校長　　中田　清人

職業柄、朝は早い方です。教頭の頃から６年間以上、出勤後はほぼ毎日、勤務校の校地回りのゴミ拾いをしてきました。ゴミ拾いをしながら出会うのはもっぱら鳥たちです。

ゴミ拾いをするようになるまでは、この辺りで鳥と言えば、ハトやスズメ、カラスくらいしかいないと思っていましたが、気を付けて観察するといろいろな鳥がいるものです。また、季節によって見かける鳥も変わってきます。少し前の季節だと、長い尾が特徴的なオナガをよく見かけたものです。今まで気にしていなかった鳥も、名前や特徴が分かると急に親近感が湧いてきます。私がジョギングのホームグラウンドにしている浦和競馬場にも結構いろいろな鳥がいて、目を楽しませてくれます。

見かけた鳥を図鑑等で調べて、「おお、君がセキレイだったか」「暗くなるころ帰ってくるムクドリとは、このような綺麗な嘴（くちばし）と脚をもっていたのか」などと、新たな気付きがあるのも面白いです。

今年の２月頃には、鈴谷小学校の正門前に続く「あじさい小径」沿いの用水にカワセミが飛んでいるのを見かけました。「水辺の宝石」とも讃えられる鳥が、こんな間近にいることが、にわかには信じられませんでしたが、何度か目にしたその鳥はまぎれもなくカワセミでした。

調べてみると、近年カワセミは、都市部の住宅街などでも見かけられるようになり、その生態は広がっているそうです。「カワセミ都市トーキョー」（柳瀬博一　著・平凡社新書）によれば、高度経済成長期の公害が酷かった１９６０年代から７０年代にかけて、カワセミは東京や埼玉県などの都市部から姿を消し、８０年代から９０年代にかけて環境が改善してくるにつれ、都市部に戻ってきたのだそうです。つまり、１９５０年代以前には、カワセミは東京などでも普通に見ることのできる鳥だったようです。そして、カワセミが見られるようになったということは、この鈴谷の街の環境も整っていると考えられます。ですから、このような自然の残る私たちの街は、このまま、きれいに住まいたいものです。

ゴミ拾いをしていて、最も多いのは「タバコの吸い殻」です。私もかつて喫煙者だったものですから、決して「吸わないで」とは言いませんけれども、吸う場所やごみの捨て方については、喫煙者の皆様にもルールを守ってほしいなと思います。また、飲み残しのジュースの缶を棄てるくらいなら、「水筒に入れて最後まで飲んだらどうですか？」と提案してあげたい気持ちもあります。

景観を考えれば、貼り紙をする気にはなれません。作家の椎名誠さんは、かつて著書の中で、「日本は『禁止』の貼り紙だらけだ」と嘆いていました。私も同感です。

むしろ、子ども達の方が環境を守ろうとする意識はしっかりともっている気がします。「ゴミはゴミ箱に捨てるのが当たり前でしょう？」と、本校の子ども達ならきっと言うのではないでしょうか。

私が朝、ゴミを拾う理由。それは、子ども達にゴミで汚された街を見せたくないからです。